

平成27年度  
～防災の日常化をめざして～  
みえの防災活動事例集

三重県防災対策部  
防災企画・地域支援課

## はじめに

東日本大震災から5年の歳月が経過しました。被災地では、復興に向けた懸命な取組が続いている中で、いまだに復興は道半ばと言え、むしろ長期化の様相を見せているのが現状です。また、東日本大震災以降、一時的に高まった人々の防災意識は年々低下しており歯止めがかからない状況です。

未曾有の大災害と呼ばれた東日本大震災ですが、近い将来、確実に発生する南海トラフ地震の被災地となる三重県にとっては決して他人事ではなく、何年、何十年か後の我々の未来を写す鏡だと考えています。このような考えのもと、東日本大震災の様々な実例を教訓とさせていただき、三重県が南海トラフ地震に襲われたときの、復旧・復興対策を速やかに進めるための「手順書」、「マニュアル」として「三重県復興指針」を今年度策定しました。この「三重県復興指針」を、自主防災組織のみなさんも地域で活用いただき、いつか来るそのときに少しでも被害を減らすための事前対策につなげていただければと考えています。

あらゆる災害に備えるためには、自らの安全は自ら守る「自助」、自らの地域は皆で守る「共助」、並びに行政及び防災関係機関が担う「公助」の理念に基づいて、県民、自主防災組織、事業者及び市町や県・防災関係機関がそれぞれの役割を果たしていくことが必要です。

日頃から災害に対する十分な備えを実践して、防災・減災に向けた活動が日々の生活と一体となった「防災の日常化」を実現させましょう。

この事例集は、「みえ地震対策の日シンポジウム」において表彰された、平成27年度「みえの防災大賞」受賞団体の、特色ある自主的な防災活動を皆さんにご紹介させていただくために作成しました。

平成27年12月6日（日）に紀北町東長島公民館で開催した「みえ地震対策の日シンポジウム」で、平成27年度「みえの防災大賞」表彰式が行われました。



## 目次

1. 県内で活動する団体（平成27年度みえの防災大賞受賞団体の取組）  
県内各地で特色ある自主的な防災活動を行っている団体を募集し、「みえの防災大賞」1団体と「みえの防災奨励賞」5団体を表彰しました。

### みえの防災大賞

田曾浦区自主防災隊	1
（南伊勢町）	

### みえの防災奨励賞（五十音順）

特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリースーツアーセンター	2
（鳥羽市）	
紀北中学校	3
（紀北町）	
郡山まちづくり協議会	4
（鈴鹿市）	
津本自主防災協議会	5
（紀宝町）	
東宮自主防災会	6
（南伊勢町）	

大賞

平成27年度みえの防災大賞

田曾浦区自主防災隊 (南伊勢町)

「田曾浦区自主防災隊」は、住民が自主的な防災活動を行うことで、地域住民の防災意識の向上につなげることを目的として、平成17年に発足しました。

毎月1日に防潮扉開閉訓練、防災機器作動訓練など定期訓練の実施や、田曾浦区防災ハンドブックの作成・更新を行っています。

また、自主防災隊と民生委員が全世帯を訪問し、災害時・日常の緊急時における適切な対応、緊急連絡先への報告などに活用することを目的とした地区住民すべての住民情報統合システム「田曾浦見守りたい名簿」の作成を行っています。

さらに、住民参加協力による避難路整備や、一時避難場所における、備蓄品の点検・各個人の非常持ち出し品の管理など独自の避難対策を行い、平成26年からは「女性中心の避難所運営」を合言葉に、女性セミナーの開催や、避難所運営訓練を実施しています。

このように、地域防災の活性化に貢献しており、他団体や他地域への広がりが大いに期待されます。

なお、本団体は、平成22年度「みえの防災奨励賞」を受賞しています。



避難路の整備



防災倉庫内の非常持ち出し品確認



防災勉強会







## 平成27年度みえの防災奨励賞

### 特定非営利活動法人

### 伊勢志摩バリアフリースターセンター（鳥羽市）

「伊勢志摩バリアフリースターセンター」は、日本一のバリアフリー観光推進県として、三重県に観光に訪れる障がい者、高齢者の方々に安心して伊勢志摩地域にも訪れていただくことを目的に活動しており、バリアフリー防災に力を注いでいます。

旅館、ホテルにおいての要援護者避難方法の研修をはじめ、地域の防災訓練に要援護者とともに参加するなど、障がい者や高齢者など身体の不自由な方々のために、災害時の避難について提案を行っています。

また、東日本大震災をきっかけとして、障がい者、高齢者の津波避難対策の重要性が高まったため、従前の水平移動による避難対策に加え、階段を使った高所への避難対策の検討・導入を進めています。

観光客への防災バリアフリー対策について検証や提案を行い、安心して高齢者・障がい者を受け入れられるよう、観光事業者への啓発を行うなど、安全・安心な観光地としての伊勢・志摩のイメージを高めるもので、誘客促進につながり、今後は他の観光地への広がりも期待されます。



旅館・ホテルでの要援護者避難研修



避難用具の紹介



避難訓練





平成27年度みえの防災奨励賞

# 紀北中学校（紀北町）

「紀北中学校」は、自分の命を守るために、自分で考え判断し行動することができる生徒を育てること、そして、学校が地域、保護者と連携することで地域とのつながりを深め、防災教育の中心となることを目的に防災教育に取り組んでいます。

巨大地震への遭遇を想定し、自らの命を守る方法について考えるため、防災タウンウォッチングと防災マップづくりを行っています。

また、地域や小学校と連携した防災教室の開催や、定期的に行っている避難訓練では、幼稚園と合同で実施し、幼稚園児の避難誘導を行うなど、地域防災に大きく貢献しています。

地域と協働しながら中学生が主体的に取り組む防災教育の推進と、防災教育を通じた町づくりにより地域の活性化が大いに期待されます。



避難訓練



タウンウォッチング



防災教室での防災すごろくとパーテーション製作



## 平成27年度みえの防災奨励賞

# 郡山まちづくり協議会 (鈴鹿市)

「郡山まちづくり協議会」は、南海トラフ巨大地震に備え、地域の防災力を高めて被害の低減を図ることを目的に平成24年から取組を行っています。

「できる人が、できることを、できるときに」をスローガンに防災、防犯、健康づくり、美化運動等様々な活動を実施しています。

子育て世代や、次世代を担う子どもたちにも防災に関心を持ってもらえるよう工夫をし、防災と夏祭りのコラボレーションを図るイベントを平成25年度から毎年実施しています。イベントでは、親子で非常持ち出し品等を検討する機会を提供し、地震体験や消火体験等、様々なブースを設け防災を楽しく学ぶ機会をつくっています。また、まちづくり協議会の呼びかけで、自治会、消防団、小学校、民生委員、社会福祉協議会、ボランティア、消防職員等がイベントに参加することで、平常時から顔の見える連携体制を構築しています。

家庭での防災対策などについて書かれた防災ニュースを発行し、地域に配布することで、地域の防災意識の向上にも貢献しており、今後の活動も期待されるところです。



防災講演会



地震体験



防災と夏祭りのコラボレーション





平成27年度みえの防災奨励賞

## 津本自主防災協議会（紀宝町）

平成24年に発足した「津本自主防災協議会」は、平成23年9月の台風12号で甚大な被害を受け、その教訓を忘れないために、地域住民の安全と、災害に強い安心・安全な町づくりを目指し活動しています。

「子どもから大人まで、地域全体で防災活動を実施する」を合言葉に、避難所運営訓練、無線通信訓練、炊き出し訓練、個人の避難計画作り、地区タイムライン作成会議への参加などを行っています。特に、避難所運営訓練の一環として、台風12号の際、避難所で一番困ったトイレについて、猫のトイレ用砂を使った非常用トイレの活用を地区全体の啓発運動として実施しています。また、小学生、中学生と合同で避難所運営訓練を実施するなどの取組を進めており、これら取組の他地域への広がりが期待されます。



タイムライン作成会議



炊き出し訓練



避難所運営勉強会





## 平成27年度みえの防災奨励賞

# 東宮自主防災会（南伊勢町）

「東宮自主防災会」は、地域住民の防災意識向上を目指し、津波避難訓練、炊き出し訓練、要援護者搬送訓練等を実施しています。

東宮区災害時行動計画書を作成し、配布を行うことで、防災意識の高揚と知識の普及を図っています。また、災害時にすみやかに避難できるよう二次避難場所に各世帯の備蓄を行うなどの取組を進めています。

特に、災害時避難行動要支援者対策について重点的に取り組んでおり、より安全にすばやく避難させるための、車両による避難方法を考えた上で、新たに避難路を整備し、さらに、避難行動要支援者宅に簡易担架を配備しています。

これらの取組は、自助・共助の観点から、地区住民の知識・意識・行動力の向上につながるもので、全ての住民にとって安全で安心な町づくりが期待されます。



搬送訓練・炊き出し訓練



二次避難所への備蓄搬入作業



高齢者の防災対策



避難行動要支援者宅に配備された簡易担架